

道路交通と農村振興

高田正一

選外佳作

一概說

凡そ交通機關は其の發生及び發達によつて、經濟生活を進歩向上せしめ、以て積極的に貢獻するの作用をなし得るのである。思ふに交通機關の發生は、從來技術的には可能であつて、經濟的には不可能なりし交通をば新に可能ならしめるのみならず、從來技術的にも不可能なりし交通をすらも可能ならしむるに至らしめるのである。從來から存在し來つた交通機關が發達するか又は新なる交通機關が發生するときは、運送は從來に比し低廉迅速安全の程度を加へるに至るから、貨物は從來通りの費用と時間とを以てすれば一層遠距離迄運送され得るに至るのであつて、此の一事が出發點となつて良好なる影響は生産、交換、分配、消費の各方面に及ぶのである。殊に道路は國民生活に至大の關係を有し之を整備する事によつて、產業の發達文化の進展農村の振興等あらゆる方面に貢獻するの

であるから之が施設改善によつて一國の經濟生活の進歩向上を來さしめる點に於ては最も根本的な一大役割を演するものであると云はなければならぬ。

二 農 村 の 現 狀

我が國の盛衰を荷て立てる農村は現状に於て行き詰つてゐるのではないか。農村振興の聲が年一年八釜しくなつてゐるにも拘らず農村青年の離村は年一年激増し反つて農村を疲弊困憊に導いてゐるのである。この疲弊困憊の原因は種々あるであらう又これを救濟し振興する方策も多々あるであらう併し農家の收支が償はないのが原因であるならば或は耕作方法を改良して最小の勞費を拂つて最大の効果を收めんとするのも一方策であり或は肥料の改良によつて一反歩當りの收穫を増加させることも一方策であるが元と耕地には限りがあり土地には收穫遞減の方則がある以上無限に增收は計り難いそこで農村振興の根本策として多角形農業と相待つて農閑期副業の經營をなし收入の途を講ずる事が目下の急務である。

三 農 產 物 と 交 通

一國の産業が交通機關の整備に至大の關係あることは前に述べた如くなるも近時農業經營の變轉により益々交通完備の必要を感じるに至つたのである。言ふ迄も無く往時は自給自足の經濟なりし故今日程交通機關に對して密接な關係を持たなかつたが今日の農業は自給品迄も金に換算し

て考へねばならぬ程に經營の様式が變り生産物は出來得る限り多く高價に而も迅速に商品化し金に換へる必要を生したのである。

農産物の販賣に當りて閑却する事の出來ぬ事は運送料金であつて就中小運送料の問題である。元來農産物の價格には生産費に運賃及取引上の諸掛りを加算したものから成立つのであるが其の運賃が右價格の主要部分を占めて居る事は取引上最も留意すべき事である。

大運送機關である汽船、汽車によるものゝ運送料金は其の機關の經營が組織的に行はれたるため、相當低減を見たるのであるが道路運送たる小運送機關に至りては意外に不備であつて其の料金の高價なるに驚くのである。殊に農産物は他の商品と異なり割合に容量が大なるものであるから険惡なる道路は不完全なる小運送器具で送荷並に配達せらるゝ爲め常に多大の運送料を要するのである都市が今日の如く膨脹し農産物の移動が著しく増大したのであるから假令生産費の遞減を圖る取引機關が依然として面目を改めざる限り有利なる取引が行はれざるばかりか配給は圓滑を缺き生産消費兩者の生活の脅威は去る事が出來ないであらう。

四 都會食糧品と交通

新鮮なる食物と否とは健康に重大なる關係を有するのである近時都市の膨脹するに従つて食糧品供給の圓滑を期すると共に其の取引組織を改善して價格決定の公定を求めるが爲め物資の配給機關を整備するの必要が生ずるに至つた。都市食糧品殊に農産物腐敗性品に至つては、

一腐敗性品なるものはカロリーの最も多い最も滋養に富んでゐるものであるから之が配給の工合如何は直ちに國民の健康やがては國力の上に影響を及ぼすこと大である。

二賣買の迅速を要する。冷藏庫と云へとも到底新鮮の保證は出來ない。

三都市が膨脹するに連れてその住民はかなり廣い地域に住むことゝなり消費者と品物の生産場所との距離が遠くなるそこで何とか工夫しなければ到底十分にこれらの必要品を廉價に供給することが出來なくなる。

腐敗性食糧品は以上の特質を有する以上從來の鐵道運送はみだりに時間と費用を要し迅速且つ安價に供給する事不能にして之を改善して道路小運送の整備を行ひ自動車によつて生産者より消費者に直輸送するに至れば江州の大根も一夜にして京都の青物市場に出づると云ふ事になり新鮮そのものゝ野菜類を手に入る事が出來一方地方農家は仲介商人の手を省き直接販賣によつて利潤を増すに至るのである。

五 交通機關の現状

我が國に於ける陸上運送機關中鐵道は明治五年京濱間に始めて鐵道が開通してより以來鐵道及軌道を以て唯一の陸上交通機關として之が建設に没頭した結果鐵道は非常なる發達を來たし爾來六十餘年間に官私有合計一萬哩以上に達したるも道路は國道二千里府縣道二萬二千里市町村道二十三萬七千里にして此の道路面を運行する小運送用具は荷馬車三十萬四千臺牛車七萬四千臺荷車

二百十四萬八千臺貨物自動車一萬三千臺であつて英國米國のそれに比して遙に劣つてゐる。

次に農産物の價格を決定する運送料金を見るに小運送料金が大運送料金に比し非常に不廉でありそれが市場價格昂騰の原因をなして居る事は否定する事の出來ない事實であるが今之を見るに小運送料一噸當り一里の料金は最高五圓最低二圓平均三圓五十錢で之れを全國鐵道運賃と比較すれば一噸當り各種等級平均一圓五十錢となるから小運送料は鐵道運賃の約二倍三になるのである。

六 小運送機關の改善

以上の如く小運送料金の不廉は副業品の高價となり延ては農村副業の不振となるに至るのである。果して現在の小運送機關に上述の缺陷ありとするならば極力之が芟除に努め料金の低減を圖り交通の安全を行ひ得る様致さねばならぬ。

今改善上緊急と認むべき諸點を擧ぐれば

1. 小運送の設備改善 我國の農業は歐州或は米國のそれとは異なり小規模集約的農業なる故生産量も少く出荷量も小口であるから自然運賃も不廉となるのである、そこで村々に或は出荷組合農業倉庫、販賣組合等を組織して出荷量を多くし險惡なる農村道路の運搬には可及的に回数を少くし時間と労力の節約を計らなければならぬ。

2. 產業道路の改良と普及 道路問題を閑却しては如何に產業立國を唱へ或は農村振興を劃策しても到底其の目的を達する事は覺束ない殊に較近交通運輸上に一大革命をなした自動車は都

市の發展と産業の振興に寄與し貢献する所大にして、自動車の利用が將來益々盛ならんとする今日の趨勢より觀る時は自動車輸送に適切なる道路改良施設を爲す事は蓋し國家産業の發達、農村振興に資する所以にして一日も等閑に附することを得ない緊急事である。我國道路の現状を見るに東京大阪、京都横濱等の大都市に於てさへ尙且つ高速度自動車の交通に不適當なる砂利道であつて一朝降雨の場合は自動車を驅るにさへ不愉快極はまるのである。運送具の能率は牽引力の強弱によることは勿論なれども道路面の善惡により著しき關係を有するのであつて道路の抵抗力は鐵道を一とすれば花崗岩道路は其の二倍乃至七倍アスファルト道路は四倍乃至六倍砂利道は十五倍乃至二十倍であると稱せられてゐる我國の道路は幅員狭く、險惡な箇所多く爲めに運送力を減殺すること甚だ大である。依て道路を改良し自動車、荷馬車を自由に驅使し得る程度になし産地と消費地との距離を短縮し生産物の運送を圓滑にするのが最も急務である。

各種の交通方法は互に競争關係にあると同様又協同關係を有するものにして速力に於ては優秀なるも費用に於ては他に劣る等何れも一長一短があり汽車は長距離輸送に長するも短距離運送は寧ろ自動車によらねばならぬのであつて、相互協同關係を有するのであるから其の長短に従つて互に良く利用せらるゝ様に道路網を配する事は是れ又必要なのである。

道路の交通は國道を幹線とし之に府縣道以下各種の道路を配し是等道路に於ける交通の脈絡相通して始めて全きを得るものであつて、是等幹支線の内一局部でも不完全な所があるときは

交通は阻害さるゝものである、之れ我等の身體に血脈と神經線とあつて兩者の完全を得て各自其の働くをなすと同様であるから道路の改良と相待つて道路の普及を圖らなければならぬ。

3. 小運送具の改良 運送方法としては人背、荷車、牛馬車、自動車等各種の運送方法行はれてゐるも自動車を除いては總て不經濟なる運送方法にして、かゝる運送能率の低き荷車、牛馬車は自動車に改むることゝせねばならぬ。

近時自動車の利用範圍甚だ大にして乗用自動車は戸口より戸口に我等を送り貨物用自動車は生産者より直ちに消費者に輸送する等鐵道輸送の爲すべき所に非ず、又速力の點に於ても米國の如き汽車の速力の速い所でも貨物車に在つては百五十哩を輸送するに五、六時間要し且つ到着地の停車場から市場迄運ぶには更に自動車に積替へなければならぬ、其の爲に農産物中殊に生物の如きは損傷を與へられる事が少くない。而して汽車の積卸し再運搬の手數等を計算すると、どうしても二十四時間以上を要するのである。之を初めから自動車に依つて收穫地より直ちに市場に運ぶとすれば三、四時間にして目的地に運ぶ事が出来る。又費用の點に於ても自動車によれば荷造に要する費用或は途中積替に要する時間と費用を節するのみならず鐵道に依るときは、運送屋、委託販賣、取扱人、青物問屋、小賣人等數段の仲介人を経へ始めて消費者の手に入る所以あるから之等商人の口銭が生産費運送料の外に新に組み入れられるのである。

今後自動車輸送が組織的に經營せらるれば都會地に於て最も配給に困難を感じてゐる腐敗性農產物は自動車の輸送に依り生産地より市場へ市場より消費地へ連絡輸送を迅速に爲す事を

得べく、其の範圍は生産地を中心とする半径百五十哩の圏内に及ぶことを得るのであつて之が完全に行はるれば地方農家を潤すことが出来、農村副業は盛に趨くのである。

七 結 論

今や世界何れの國でも農民は非常に困窮して居るやうであるけれども我國の如きは窮状實に其極に達して居るのである。主務省に於ても早くより農村の疲弊の救濟策として専ら副業の宣傳に努めた結果昭和參年度に於ては副業生産總額八億六千百萬圓の多額に達するに至つたのである。今後は生産品の安價を圖ると共に産業道路の開發と自動車網の完備によつて運賃の低減運送の迅速に努め副業の獎勵をなし農村振興に向はねばならぬ。

終

◇ × ×

× × ◇